

第1回 ひろしま西風新都の都市づくり懇談会要旨

1. 懇談会名称

第1回 ひろしま西風新都の都市づくり懇談会

2. 開催日時

平成24年8月1日（水）10:00～12:00

3. 開催場所

広島市役所本庁14階 第7会議室

4. 出席者氏名（敬称略）

(1) 出席者（15名）

大東和 武司、長谷川 弘、間野 博、秋野 征治、梶山 正治、國田 晃司、三宅 正昭、大江 英毅、山崎 正志、藤井 豊、柳川 寿子、竹崎 宗一郎、古屋敷 峰予子、堀崎 真一、友道 康仁

(2) 欠席者（1名）

塚井 誠人

5. 議題（公開）

- (1) ひろしま西風新都の都市づくり懇談会の座長の選出について
- (2) ひろしま西風新都都市づくり全体計画の見直しについて

6. 傍聴人の人数

一般傍聴者2名、報道関係者4社

7. 懇談会資料名

資料1 ひろしま西風新都の都市づくり懇談会の構成員名簿

資料2-1 ひろしま西風新都の都市づくり懇談会開催要綱

資料2-2 ひろしま西風新都の都市づくり懇談会の公開に関する取扱要領

資料2-3 傍聴要領

資料3 ひろしま西風新都都市づくり全体計画の見直しについて

参考資料 西風新都パンフレット

8. 各出席者の発言要旨

(1) 座長の選出

出席者の互選により、県立広島大学の間野教授が座長に選出された。

(2) ひろしま西風新都都市づくり全体計画の見直しについて

箕田西風新都整備担当課長から、ひろしま西風新都都市づくり全体計画の見直しについて、資料3により、概要や現状の説明を行った。

(3) 意見交換

【間野座長】

今日は第1回目ということで、懇談会でこれから何を検討して行かなければならないのかということの共通認識を持つのが課題と思っている。

特に、見直しのために必要な事は、説明の中で都市づくりの課題がたくさんあるということと、西風新都を見直すときの課題がこれだけなのかとか、ここで挙げている課題が見当違いではないのか、それを踏まえて全体計画を見直ししていく背景とか見直しの狙いとかを書かれている訳だが、このあたりについてもこれでいいのか、背景としてもう少しこのあたりを押さえる必要があるのではないのか

かとか、狙いとしてこういうことでもいいのかどうかとか、社会情勢の認識はこれでいいのかどうかと
いったことを確認した上で、次回に全体計画の見直しの方針ということでその時には都市づくりの基
本理念が検討されることになる。

開発フレームの検討なども行われる訳で、それを出して頂くためには、現状認識、それと課題認識、
それからこの見直しの目標とか目指すべき狙い、そのあたりのことをしっかりと共通認識を持つ
必要があると思う。

【三宅氏】

善當寺地区の開発の近辺の住民の声を話したい。

西風館と焼却場で、西風館は3月にオープンして焼却場は10月10日に試運転に入る。

現在、外環状も出来ておらず、相当交通量が増えるということで心配している。

先日焼却場の入り口にある工場が倒産して、そこから流れ出る錆を止めるために中間業者が入って
いるが、その業者がそこに工場を稼働するという確認したら、東日本のがれきはそこでは処理
はしないということであった。

その中間業者に広島市から許可が出ると思うが、そうするとその交通量も増える。

そうした話の最中に、少し離れた所に同じような業者が来るという話がある。

焼却場とか火葬場は、住民にとってあまりイメージが良くない。

それを広島市が持ってきたから、広島市は許可をしないというような逆の発想もあるが、そういっ
た話がどんどん起きていて、公害もさることながら、道路整備が出来ていないので交通量が非常に心
配されている。

資料の中には大塚交差点のことは書いてあるが、伴交番のところも非常に混雑していて、その交通
量の問題とそういった工場から出る公害の問題が今回の資料の中に書かれていないので、是非考慮し
て頂ければと思う。

なおかつ、そういった工場が許可されると、広島市全体からみても、そういう人が嫌うような廃棄
物の処理場とかいったものを造る場所が無いので、ここにいったん出てくるとどんどん関係の業者が
出かねないということで、先日も広島市に土地を売らないでくださいとお願いに行った。

今は、2業者が中間処理の工場を造るという話が持ち上がっている。

地域住民は認めないと言っているので、是非こういった話の中でそういう考慮をしていただきたい
と思う。

【山崎氏】

見直しの狙いとか、視点、方向性といったようなものはこれで良いと思う。

私は仕事柄いろんな都市に行き、最近は特に四国四県、岡山、山口、九州の方にも行ったが、西風
新都の位置づけについて、開発から20数年経っている現状においてこういったことを言っただけは失礼
かもしれないが、お粗末な「まち」である。

企業側から見ても、西風新都に進出して企業活動をしようという視点には、なかなか事業経営者に
聞いても魅力に乏しいという声を聞いている。

それはどういうことかと言うと、アストラムラインが途中で止まっているということが第一の問題
である。

それから交通アクセスだが、道路が外環状線にしる、内環状線にしる、全て止まっていて実際まち
が起動していない。

それから話はずれるが、広域公園のビッグアーチにしても、もっともっと全国的に、あるいは世界
的な規模で人を呼ぶべきである。

そうするためには、先程言ったような交通アクセスの整備が必ず付きまってくるので、これはもう実現するのみだと思っている。

今日もお越しになっている県の方や国の力を借りて、早く実行に移す段階に来ていると思う。

【大江氏】

石内地区で、今現在進んでいるのが東街区の開発と湯戸地区というところの開発、それと石内バイパス沿道のまちづくりをやっている。

元来この目的は、アストラムラインの延伸が、既に己斐で動かないということになると別の話になるが、我々が考えているのは、廿日市、岩国、大竹等広域に取り組むためには、五日市駅にまず延伸して頂きたい。

そうしないと南北の線は、交通の便が悪く車以外ではいられない。

バスの便は少ないし、これは人が少ないからバスの便が少ないということではあるが、石内バイパスにアストラムラインを延伸することは費用がかかりすぎるという話だが、卵が先か鶏が先で、そこに通すことによってその沿線は必ず発展していく。

私共は、そのためにも今、声を大きくしていきたいというのが、本当の思いである。

大塚・沼田地区に修道大学、広域公園、市立大学、これに通うすら非常に難しい状況であり、費用対価を考えたら、今は合わないかもしれない。

しかし、将来を考えたらこのことは絶対に必要と思う。

そういう事もひっくるめて、今、石内バイパスの沿道のまちづくりの一番基本のところはそこであるが、今現在やっていることは、広島市はもう己斐に回すのだという発想の中でやったらこの話はない。

ほんとのまちづくりがどこにあるのか、もう一度、検討して頂きたいと思っている。

【秋野氏】

西風新都の東北部にあたる、伴学区の現状を説明させて頂く。

先ほど三宅さんが言ったように、いろいろな企業がどんどん無造作に入ってくるということで、いろいろ心配しているが、現在、造成工事を理由に建築残土といったものを利用してどんどん造成していく。

そういったものでは無いと業者は言っているが、それから焼却灰といったもので造成しているということになると、ここのテーマにもある災害、土砂崩れなど、山麓部を造成するのでそういった心配もある。

それから地下水の汚染もここでは考えなくてはいけない。

水田などの水もいろいろ心配になってくる。

先ほども話が出たように、この地区は苦渋の選択で安佐南工場、それから西風館、そういうマイナスのイメージの事業を受け入れている。

この広島周辺の方々は、そういったイメージを強く持って、この辺だったら理解が得られるのではないかということで、どんどん進出してくるのだと思う。

ここは都市計画の中に、住み、働き、憩う、学ぶというテーマもある。

その住む方の権利が脅かされているということで、これを何とか我々は払拭したいと思っている。

その辺も、今後の計画の中に、区域を指定しこの地域はこういった規制がありますよ、こういう業種は進出出来ませんよというような規制も考えて頂きたいと思っている。

【國田氏】

伴東学区は、一番東の方で、入り口というか玄関というか、ここに伴東保留地があるが、これが先ほど言われたように困っている。

いきなり私の提案を述べさせて頂いて申し訳ないが、以前に車座談義で私たちも研究会を開いて述べさせて頂いたが、あの地区に沼田パーキングエリアというのがあって、そこにスマートインターをどうかという話をしたが、おかげで話も進んでいるようであり、それに関連して伴東学区の伴東保留地に防災とかそういったものを含めたものをどうかということだったが、この度、私どもで会談をし、スマートに関連して、そこに火山（ひやま）という山があって、代名詞のような様になっているのだが、そのふもとに伴東保留地がある。

そこは非常にきれいな水が出て、そのきれいな水を残しながら今のエコとか防災、私が言いたいのは、スマートグリッドと防災を含めた、スマートシティをどうかと提案させて頂いたが、今回、また提案させて頂く。

そこに、ある大学が沼田高校にそういうエコの話があるように聞いている。

その理由として、まずその地区は広島中心部から非常に近い所であり、最近、道州制という話も出ているので、それを睨んでの提案、それから東日本で地震があったが、都市化の災害は大都市中心ということで、そこらあたりを睨んで、そこらにやってもらえればいいなと言う感じで提案させて頂きたい。

それから、もう一つ平地部の開発で、先ほどからも出ているが、東西に関しての道路はある程度整備できているが、南北の横断道が非常にジグザグして、川を渡ったりして十分に往復が出来ないということで、そこらの整備をしたらどうかと思っている。

私もずっとこの地区に住んでいるが、この安川沿いが非常に綺麗になり、奥畑川、大塚川も非常に綺麗になり、最近では鯉とか蛍が綺麗に夏になったらたくさん出てくるような状況である。

その安川を一つの憩いの場として位置付けて、それから今言ったように道路を、南北の縦断道の整備をしたらどうかと思っている。

その道路には、皆さんどう思われるかわからないが、福祉の面からいって車いす電動車が通れるようにとか、それから学生さんがたくさんいるので、自転車道を整備するとか、電柱の地中化というのを頭に入れてやって頂きたい。

というのも私は外国に行くが、G8とかG7とかあるけど、向こうに行ったら非常に綺麗で、せっかくやるのだったら、新都ということでそこらも含めてやっていただければと思う。

いろいろあって、すぐ出来るというものではないが、我々も協力して、行政の力を借りたりして一緒にやって、なんとかそういう夢をかなえて頂きたいと思う。

【藤井氏】

私は、進出した企業の代表ということで、今、進出した企業の中でひろしま西風新都クラブという会をつくっており、102社ほど加入している。

つい先日も総会が7月26日にあり、8月1日にこういった会があるのでいろんなお困り事、要望とかないでしょうかという話をさせて頂いた。

もともとこの西風新都クラブが発足して9年になるが、当初の1回目から議論に出てきたのが高速4号線の料金の問題であり、とにかく4号線を通勤あるいは仕事などでも使いたいという企業さんがたくさんいる。

先ほど統計にもあったように、物流、運送業者が多く、そういった業者は、例えばインターには近くて県外に行くのはいいが、市内に抜けるのに大塚交差点を右折して市内に入るケースがほとんどだろうし、4号線に乗れるというのは、なかなか今の料金であれば非常に乗りにくい形になっている。

当初からよく会員の方が言っていたのは、進出した企業あるいは住民の方は頻繁に使うのだから、例えば、そういう方はパスポートではないけど、もっと安くなる形の仕組みを作ってほしいといった事をよく言われていた。

この秋に社会実験を10月、11月で広島市も取り込まれるというのも聞いているが、ここは思い切った価格をやってほしいなと思っている。

今は、当初から比べると進出企業もどんどん増えてきて、なおかつそこで働く社員さんというのはほとんどマイカー通勤であり、ただでさえ事業者の車が増える中で、通勤の車が増えて渋滞がどんどん加速されている。

是非、経済的なものだけではなく渋滞緩和という意味では、やはり道路を新しく造るというのは莫大な金がいるが、今あるものを利用して乗りやすい状況にして頂ければ、渋滞というのは無くなるのではないかと思っている。

それと、先ほどから出ていた内環状線、外環状線が全線開通になればこしたことは無いが、やはり優先順位というものがあると思うので、つい先日の時にも話に出ていた大塚交差点に集中するというところで、今、抜ける道というのが神原のしだれ桜の所から細い道がある。

そこから石内の道のところに抜けることができるが、2~3か所すごく狭い所があって、あそこが片側1車線でも出来ればそこへ抜けて行けるということで、石内の旧道に出れば石内バイパスに抜けることができ、例えば市内に行くのであれば五月が丘の交差点から曲がれる。

石内バイパスを曲がって五日市方面、西広島バイパスに抜けて行くといった形で、たちまちあそこを通して、なんとか通りやすい状況にして頂ければ少しでも緩和ができるのではないかと思う。

それともう一点、西風新都の中に6つほど団地があって、伴北工業地区だけ公共交通機関が通っていない。

そこに進出されている企業は、民間企業に委託して送迎をしており、そういったところに結構な費用がかかる。

そういった意味でそのエリアに関しても今のバス路線を延長して頂いて、公共交通機関を充実して頂ければということで、そのことに関しては、5月か6月に広電さんの方にも行ったし、アンケートを取りながら採算性も含めて進めて行きたいと思っている。

【大江氏】

今の続きの話で、石内地区で非常に過疎化が進んでおり、今、言われるように公共交通機関がほとんどバスだけで、それもほとんど一日に何便かという状況である。

デマンドバスとか、いろいろ地元で考えたが、やはり人口とバスの維持費の割合を考えたら、いけないということで、アストラムラインのことは特に思うが、途中団地が、五月が丘団地、藤の木団地と連なっており、このあたりも既に高齢化が進んでいる。

佐伯区の中で一番高齢化が進んでいるのが、五月が丘で、それに続いて石内とか、今は美鈴が丘もだんだん近くなっている。

そういう意味をひっくるめても、アストラムラインの延伸が必要だということと、もう一点、広島空港。

今度、岩国空港が開港するが、広島空港のアクセスは山陽道の一本で、交通事故が起こったら飛行機に間に合わない。

今度、岩国が開港すると利便性たるや岩国へ行っても広島空港もどちらも使える。

そういった点を考えてもやはり、もちろん幹線道路の整備も必要だがアストラムラインの延伸も必ず必要だと思うので、これは是非加えて頂きたいと思う。

【梶山氏】

この西風新都そのものは、こころ団地・Aシティなどの団地が西風新都という方が随分おられ、石内・伴地区全体が西風新都地域ということをはほとんど認識していない方が多い。

そこらあたりのPRというのは簡単な事であろうが、地元もPRすべきと思う。どうも普通に聞いていると伴の下の方では、西風新都の方はね、というふうにしこの地域の住民は言われる。

あなたの所も西風新都だろと言えば、ああそうなのといった感じで、そのへんどうなのかなと思う。

それと西風新都は、住み、働き、学び、憩うといっても、伴・石内地区に住む一体感は全然ない。

片方は佐伯区、片方は安佐南区ということで伴地区については一体感はあるが、石内とは全く何もなくて、何かある時にどうなのかね、ということは時々話をする。

最近のことであるが、石内北一丁目でしょうか、今から団地が分譲されるが、小学校は伴南小学校へ、中学校は大塚中学校となる。

そのこの地区のコミュニティそのものが今からどうなるのか、行政としても開発の時点からいろいろ考えてもらわないと、生活は佐伯区、学校は安佐南区、どう考えても変な感じ、全く行き当たりばったりといった感じがしてならない。

そこに入って来られる方が大変になるのではないのかというような気持ちである。

小学校は、そのこの団地が張り付けば、小学校用地はあるので出来るが、中学校は依然として大塚中学校となるので、そこらあたりいかなものかなと思う。

それともう一点、せっかくリハビリセンターという立派な施設ができたが、一般の外科診療がない。市の広報を見れば赤字経営になっているような状況であるが、そこらあたり先生を増やすのは難しいかもしれないが、一般外科診療をして、収益を増せば、地域の人も随分助かるのではないのかと思う。

そこらは行政の方で若干考えれば、できるのではないか。今の市長さんならすぐやってくれるかもわからないが。

【長谷川氏】

いろんな方から、いろんなコメントを聞く都度にたくさんの事を学ばせて頂いているというのが今の状況かと思っている。

私も修道大学に努めている関係で、毎日アストラムラインに乗って、時にはAシティに買い物にも行ったり、学生さんもこの地域からたくさん来ているということで、常にこの地域とは接しているつもりではあったが、あらためていろんな方の話を聞くと、ひろしま西風新都は広いなという考えをあらためて持った。

私は専門が環境で、何人かの方が環境に関するような、例えば三宅さんの方から、あるいは秋野さんあたりから、焼却施設の安佐南工場に関わる懸念とか、それから國田さんの方からは地域の蜚を含んだ環境の保全とかそんな話があったりして、この地域の環境の事はどうなっているのかということ、今日、説明を頂いた中から拾い上げようとしたら、普段見ているあたりどうなっているのかと少しずつ思い出していたが、構想の中で「自然環境に調和した」とあるが、環境とどう調和していくかという具体的計画が、今一つ見えていないのかなという気がした。

それでまさに安佐南工場で産業廃棄物をどうするかとか、それから先ほどの地域の自然環境の蜚なども含めてどうやっていくかという位置づけが、新しい見直しの中では一つ大切になっていくのかという気はした。

全面積の3分の1が保全地区ということで、かなり環境を意識したゾーニングになっているように、3分の1をどうやるかというのは、この地域のブランド的なところをどう訴えるかとか、将来に向けて環境をどう含めた持続可能な都市づくりにしていくかという、新しい新都という中では、非常にシンボリックで重要な事と思う。

【大東和氏】

確認的なことですが、住民の住まれている所、あるいは企業の事業所の関係で、昼間人口と夜間人口、そのあたりの動向がどうなっているのか。また、住まれている方について転勤の方が多いのか、あるいは古くからずっと住まれている方が多いのか。そのあたりがどうなっているのかということ、後日でいいので確認させて頂ければと思っている。

それと併せて、企業誘致にも関連するかどうかと思うのですが、土地の利用制限状況を教えてもらいたい。また、その見直し、あるいはその構成がどうなっているのかによって対応も変わってくると思われるし、計画をどのようにつなげるのかという事にも波及してくると思うので、そのあたりも教えて頂ければと思う。

【間野座長】

西風新都のすごい所は、みなさんの側から言うと問題の原因でもあるが、つまり住宅団地だけではなくて工業とか、いわゆる職場もいっぱいある。

都市計画で一番原点になるのは田園都市論っていうもので、それを基にイギリスでニュータウンというのが出来て、ニュータウンというのは住宅と働く場所が一体化しているところだと、そういうまちを造っていかなくてはいけないのだというのが、大学で最初に教えられる事で、ここはある意味では形の上で両方ある。

先ほどの昼間人口や夜間人口に関わる話は、そこで働いている人がそこに住んでいるのか、全く住んでいる人と働いている人は無関係なのかどうかとか、そのあたりのデータもなんとかして頂くと、先ほどコミュニティの話があったが、そのへんの事も含めていわゆる一体感というそのあたりにかなり関わってくるような事になるので、そのへんも是非、調べて頂ければいいと思う。

それと土地利用規制が今どうなっているのかというのを、例えば先ほどの産業廃棄物の事にしても、少し法規制がどうなっているのかみたいな事は、市街化区域、市街化調整区域の線引きの事も含めて、ざっとは出していただいた方がいいかなという感じがする。

ただし、この見直しはむしろそれを乗り越えて新しい計画を作っていこうということだと思うので、一応そういう事は押さえつつもそれにこだわらず、いろんな意見を出して頂く事がいいかなと思う。

【竹崎氏】

市立大学に通っているが、市立大学は大塚とかAシティがちょっと遠く、アストラムラインに行くのも徒歩で行ったとしたら、1kmとか1.5kmとかあるので、そういうのでアストラムラインというのが通学の交通機関としては非常に不便なので、だいたいバスで通っている。

バスで通うと、バスセンターまで出て高速4号線を通っていくことになるので、西風新都を憩う場所で使うということから少し離れてしまうというのが一つ。

自分は西風新都に住んでいるわけではないので、大学以外に西風新都に何をしに来るかという、サンフレッチェとかを見に来るが、最近、サンフレッチェは新しいスタジアムの建設計画があるというのを聞いた。

西風新都の憩うというところの部分だと、だいたい広域公園になると思うが、そうするとサンフレッチェがスタジアムを変えてしまうということも考慮していかなければならないのではないかなと思う。

【間野座長】

市大の学生さんというのは、あまり西風新都との結びつきとか付き合いというのはあまりない。

【竹崎氏】

割とアストラムライン沿線に住んでいる人は、車で来る人が多いので、そうすると少し寄ってというのがない。

【間野座長】

大学と地域というのをどう結び付けるかというのが、今はどこでもものすごく重要なまちづくりの課題となっている。

是非そのあたりの事も考えていければと思う。

【梶山氏】

修道大学と市立大学とは7月末の土曜日、ふれあい祭りをを行い、協力をしてもらい店を出してもらった。運営に関しても部分的には携わって頂いている。市立大学、修道大学と直近の地元は、部分的には交流している。

それと、大塚上町内のまちづくりで石の彫刻の陳列など、市立大学の学生さんの協力でやっている。

【國田氏】

今の意見に付け加えて言うと、私のまちは高等学校、中電工の研修所、病院、量販店などいろいろあるが、祭りなどには出てくれということで、地域もそういう事業所に頼らなければいけない時代になっている。

そうかといって事業所も私らに協力して頂かなければいけない。

私は共生という言葉を使うのだが、やはり地域というものは、おたくも良ければ私も良かれというのが一番いいのではないかと思う。

会社によっては、儲からなくなったから逃げるよというのではなくて、今頃は社会的責任というのがあって、これをよく勉強されてお互いが生き残るのが一番大切だと思う。

私の所は、いろいろ祭りだとか、この度はかかし祭りをやるが、出費して頂いてうまくいっている。

【間野座長】

そういった、何かソフトな部分も計画として入れたいところではある。

【古屋敷氏】

学校の近くなのに本屋さんとか、そういう学生が行きたいような場所が少ないというのがある。

コンビニとかファミリーレストランなどはあるが、食べるころばかりで学生が遊ぶといたら、西風新都から外に出て、こっちへ行こう、あっちへ行こうとなるので、そういうのを置くことによって活気づくというか、学生が留まるというか、そういう場所があった方がいいと思う。

【堀崎氏】

いろいろとこの地域に課題があって、整備をすべきことがたくさんあるという事が、要望というか課題として非常に勉強になった。

建政部としては、広島市さんや、各県さんがやっている地域のまちづくりを応援する立場であるので、なるべくその応援をして行かなければいけないなと思っている。一方で、なかなか最近は整備をするお金が減ってきているというのは、皆さんご存知のとおりで、なかなか全部をやるのは難しそうだなというのは、聞いていて非常に思った。

それと、いろいろな自治体から要望や課題を聞いているとどこも内容が似ていて、どこでも整備をしてもらえれば発展するのではないのかという期待がある一方で、全部が全部必ずしも発展するわけではない。何故ここでそれをすればうまくいくのかという部分をきちっと見据えてやらないと、どこ

でも整備をすれば、あった方が無いよりかましかども、それに見合うものが必ずしも全部でペイするとはとても思えない。何故この場所でこれを整備すればうまくいくのかというところを少し考えないと、実際にやりたくても出来ない部分があると思う。例えばアストラムであっても、これを引くことによってどれだけの人が増えるのか、逆に予定どおり増えなかった場合にどうするのかというところも含めて、検討をしていった方がいいのではないのかなと思った。

それから、広島市ではこの他にも郊外に団地がすごくたくさんあって、そういうところでは今、非常に足がなくて高齢化していて困っている。今まで進めてきたまちづくりでの失敗ではないが、課題が見えてきていて、それと同じ事をしてはいけないなというのは個人的にはずっと思っている。その反省を踏まえた上でこのエリアをどうして行くかというところを、この懇談会の中で是非深めていけたらなというのは、いろいろ説明をお聞きする中で、感じた。

【友道氏】

県といたしましても各地域、地域のご支援できる部分については、当然ご支援をしていく。という事で、先ほど建政部の方からも発言がございましたが、やはり今の事業とそこにかかる費用について、優先順位をつけてそこを明らかにしながら進めて行くという効率的、効果的な進め方というのも議論して頂きたいと考えている。

それから、見直しの方向性の中に防災という観点があったが、この防災も3. 11を契機に、ご案内の通り国の中央防災会議をはじめ、いろいろなところで議論されている。

そういう中で域内防災、それから広範な地域での防災、それからもっと広がった部分での拠点とか、いろいろな見方があると思うので、そのあたり整理しながら機能をはっきりさせていくといった事も必要ではないのかと感じた。

【秋野氏】

先ほど西風新都の環境について言ったが、ここの地域は、防災の関係で広島県がいろいろと警戒区域、それから危険区域というふうにどんどん指定をして、そこはこうですよ、こういう危険があるので災害が予想される場合は、どんどん指定してきている。

まだ一部地域が残っているが、その中で山麓部に業者が造成をしたいということで県の方に申請をすると、許可が出て業者はどんどんやろうとするが、住民がそれを見て、ここでやってもらっては危険なので、県の危機管理の方へ言うと、初めて動き、こちらの方に来て確認をするということが何回かあった。

県の部署が、縦割りのところもあって、ここで造成をやれば危険が増すので我々の方は困るという場合がある。

そのへんのところを横の連携も取って頂いて、造成を許可して頂くというのが住民の一つの願いでもある。

こうしたことも地域としては、課題といいますか問題としてとらえている。

【三宅氏】

少し北部に戸山地区というのがあり、その河川は日本有数の生息物が生きているということで、今、地元の公民館で公民館祭りをやっているが、いろんな写真を撮ったり、あるいは小学生を連れてそちらの方でキャンプをやったりしている。

その地区は、同時に蛍をはぐくむ会という会を13年前からやり始めて3年前から随分蛍が増えたそうで、私の伴地区も同じように河川を綺麗にして、蛍をはぐくむ会をやっているが、最近随分増えた。

そうした最中、去年、赤水が大量に出てたくさん魚が死に、雨が降ると工業団地の中にたくさん工

場が出来ているので、夕方から夜にかけて黒い水が流れ出る。

その流れる出る元がわからない。

そういった事を住民は常に気にしており、いろいろ行政に働きかけをしているが、根拠が出せないというのが大きな問題である。

それからもう一点、住民としてはとにかく安佐南区の一翼を担う西風新都なのだが、安佐北区との対比をしがちである。

そうすると総合病院が無いので総合病院がほしいという声が大変に強い。

それと合同庁舎も先日来、広島市との交渉が進んでいて、合同庁舎の規模の小さい物をなんとか考えて行きましょうという折衝をしている。

現在、納税証明を取るにしましても可部まで行っている。

人口はどうかというと、おそらく安佐北区よりも安佐南区の人口が増えていると思う。

また、将来増えることを考えますともっともっと大きくなるということで、住民としては、安佐北区にあるものは安佐南区にほしいと思うし、同時に生活の直結する物は順位としては一番先にほしいという要望が非常に強い。

是非そういった事もこの会議の中でご考慮頂ければと思っている。

【山崎氏】

修道大学の古屋敷さんから、遊ぶ、憩う場所が少ないというような話があったが、これからの企業誘致にあたって、外資系を含めたレジャー産業とかサービス産業、例えば宮崎が誘致したセガとか、あるいはカジノとかといったものを一つの選択肢で検討してみたらどうかという事と同時に情報通信産業、医療産業、今はデフレの大不況の時代だから簡単に企業さん出てきてくださいという願いをしても、なかなか来てくれない。

これは、西風新都が誘致の説明会をしているだけではなくて、どこの区市町村もそれぞれの団地を造って、企業を積極的に誘致する活動を展開しているので、そういう意味でも是非そういった視点からも検討されたらどうか。

それともう一点は、今回の見直しの方向性の中に、先程堀崎さんが言われたけども、護るといった防災の視点を入れられたのは非常に良いと思う。

私も石内地区の自主防災会連合会の会長をさせて頂いているが、いろいろ勉強する中で、広島県防災会議が発表したデータによると、五日市断層、これは活断層で安佐北区久地から西風新都のこころ団地を通して、県が指定している神原のしだれ桜を通して藤の木団地、彩が丘団地、植物公園、最終的には廿日市阿品までの約20kmあるそうだが、そういう意味でもやはりこの位置というものは、そういう防災の中心的な存在として箱物を造るなり、これからの検討課題になろうかと思うが、そういう位置付けになるのではないかと思う。

【柳川氏】

立地して今11年になり、藤井常務さんと一緒に西風新都クラブでいろんな活動をしていて、西風新都の中心部に立地した一番の理由が、発展するまちに移転したかったという、一番大きなその発展するまちという点ではかなり、この10年余り、よく発展しており、ここに立地してよかったなというのは実感するものもたくさんある。

ただ、行政は常に予算との対比で、なかなか前に進まないのは良く分かるけれども、やはりネックとなっている4号線のトンネルの費用、これを一般にどういった形で決めるのか、当然償却とかいろいろあると思うが、西風新都で働いたり、住まう人にとってはまさに生活道路あり、私共のような中小企業は、従業員にふんだんにトンネルを通してはいけないといつも言っている。

最近に至っては、許可を取らない限りは通ってはいけませんというぐらい、実は費用の負担は大きなものになっていて、実験で1割とか2割とか安くしてもらっても正直なところ、それって、乗りましようという原動力にはならない。

ですからもっと、生活者なりそこに事業を展開している、いわゆる一般庶民的な感覚からいうと本当に高いので、そのへんは見直しの際に、最も最たるものにしてほしいというものがある。

長い目で見ても広島市の道路行政があって、私が批判することは無いのですが、道路行政が遅れたばかりに広島市の経済の発展は随分遅れてきた歴史があり、西風新都の道路行政をきちっとして頂かない限りは、それが一番大きなネックになるというのは皆さん思っていると思う。

逆に、先ほど発言のあった、印鑑証明を取るためにわざわざ可部まで行かなくてはいけない。

これっていったい何なのと、国税局はなにしているのよ、それぐらいオンラインで出来る様にしてよと、どちらにしても行政の方がもっと市民に目を向けて頂けたらと思っている。

【梶山氏】

伴南など最近の団地は平均年齢が若く、昔からの大塚は、先ほど石内地区の方が言われたように、随分高齢化してきている。

最近、社会福祉協議会で循環バスの検討を行っている。特に都市整備局の職員にお世話になっている。

循環バスを運行すれば随分赤字になると思いますが、先ほど企業の方も言われましたが、企業を循環すれば、社員の乗用車が減り車の混雑が解消すると思う。

これは、あくまでも民間がやる事ではあると思うが、市の方も関与されて、道路ができないのなら、市が赤字部分を援助して西風新都の中にバスを通すといったような事を検討してほしい。企業の社員の方も乗られるのではないかと思う。

高速4号を通過して西風新都へ、そこからは循環バスに乗り換える。

それと最近、立派な福祉センターができましたが、バスの便がなく、行くといったら、徒歩か乗用車である。循環バスが回れば高齢者の方も大変助かる。

【間野座長】

今日、お話、いろいろなご意見をお伺いして思ったことは、この懇談会を設置したのは都市整備局だけど、課題は都市整備局に関わらず、かなり広範囲にあるなということがあった。

かつハードだけではなくて、ソフトな課題もあるなということが良く分かったと思う。

やはり、まちを発展させて行くというのはハードで出来る事はもちろん大事だが、それだけではだめで、その中でソフトがちゃんと整っていかなくてはいけない、そのあたりを含めてこの懇談会が新しい西風新都のまちづくりを打ち出していければいいかなと感じた。

また、資料の最後に「第一回ひろしま西風新都の都市づくり懇談会」の追加意見、助言提出表というのがあり、今日、言い足りなかった事とか後で思い出してあれを言っとかなくてはいけなかったとかいったような事があれば、別にこの用紙を使わなくても、適当にこれに合わせて出していただければいいのではないかと思うので、その点をよろしく願います。

(4) 連絡事項

- ・ 次回の懇談会開催は、9月の初旬から中旬に行く予定としている。
(開催日時はあらためて連絡する。)
- ・ 「第一回ひろしま西風新都の都市づくり懇談会」の追加意見、助言提出表の様式については、8月8日の水曜日までに提出をお願いしたい。

(5) 閉会